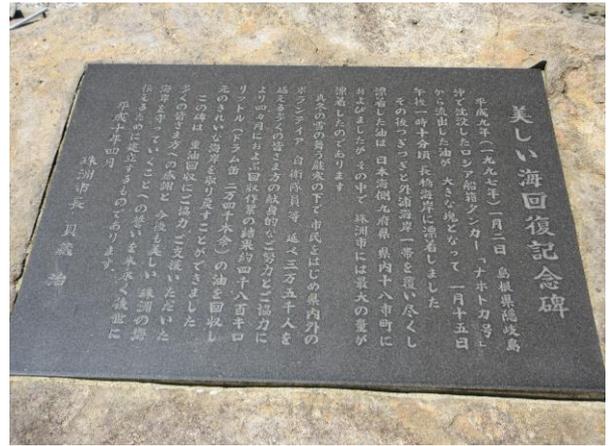


能登半島地震

○海岸隆起跡



美しい海 回復記念碑（珠洲海岸）
1997年1月、島根県隠岐諸島沖で沈没したロシア船籍タンカー（ナホトカ号）から流出した油が最も多く漂着した場所。

○地震に伴う山腹斜面崩壊（写真左上）、丘に取り残された船

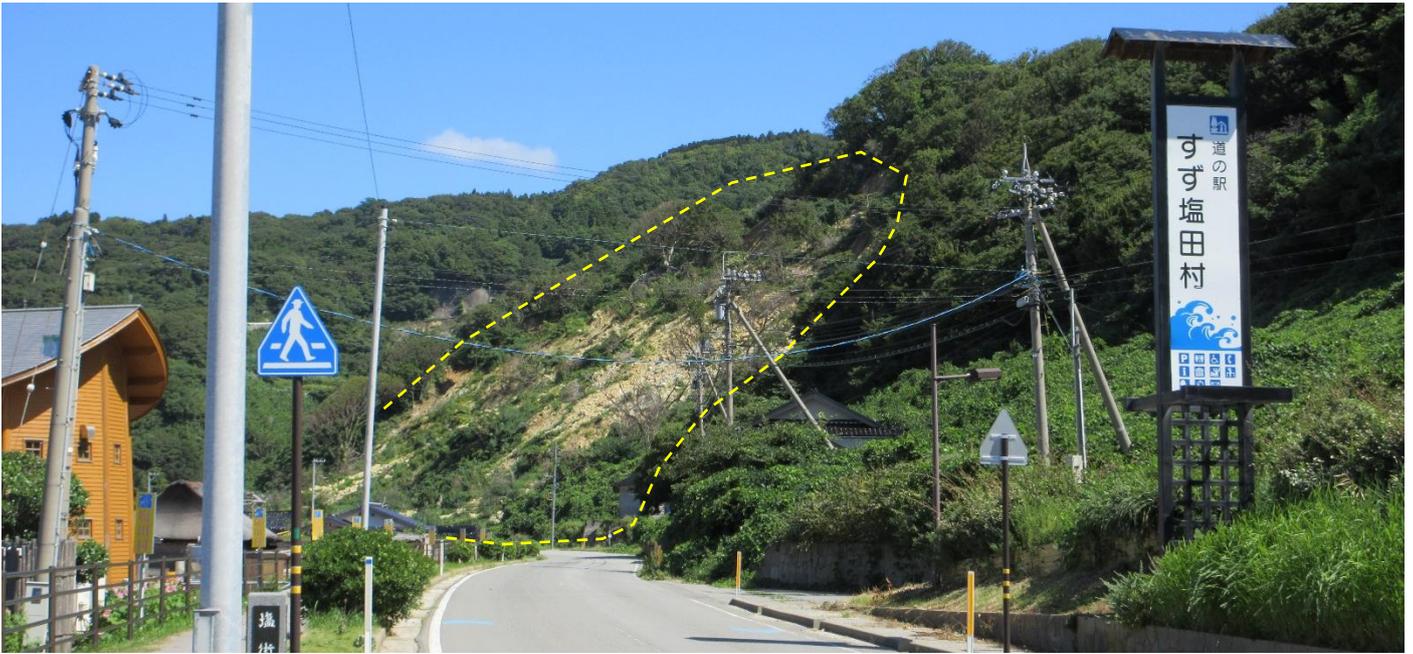


○地すべり防止区域内での被災



家屋が一様に倒壊するなどしていないことから、直接的地盤変位（キレツ等不均一な変位）による影響も大きいのではと感じられた。

○規模の大きい地すべり（国道 249 号線に押し出す）・・・2024.9 月時点で珠洲市から輪島方面への通行不能



○落 石



落 石



同左，経路



ナビに掲載されない通行止め区間が有り，目的地に向かうも，しばらく迷子状態となる。



道路の隆起箇所

能登半島が南北方向に押されることで東西方向に延びるうねりを生じ、これを乗り越えながら珠洲市（半島北端）に向かうイメージであった。



伝統構法により倒壊を免れる？



支柱脚部を固定しないことで倒壊を免れたと思われる鳥居

【補正予算と予備費】

“予備費は使いにくく、補正予算を組むべし”という意見がある。これまで、主な災害は必ず1ヶ月程度で補正予算が生まれ、対応してきたとこのこと。

「予備費は、役所内での事務手続きが面倒である。補正予算であれば、工事費の単価アップなどが容易であり、担い手業者を確保しやすい。現状のような復興が進展しない状況はあり得ない」

これが事実であれば、政権による人災とも言える。追い打ちをかけるような9月下旬の豪雨災害。財務省による“費用対効果”発言などが背景に垣間見えるなか、まともな政権の誕生が望まれる。